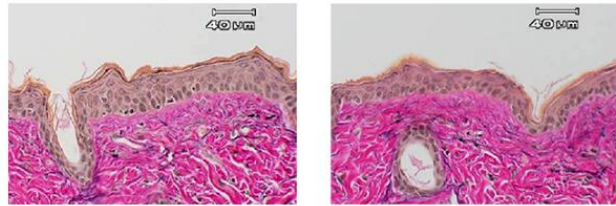


「デルメッド リンクルケア3品」について

2010年調査

●セラムバイタルの表皮肥厚抑制作用

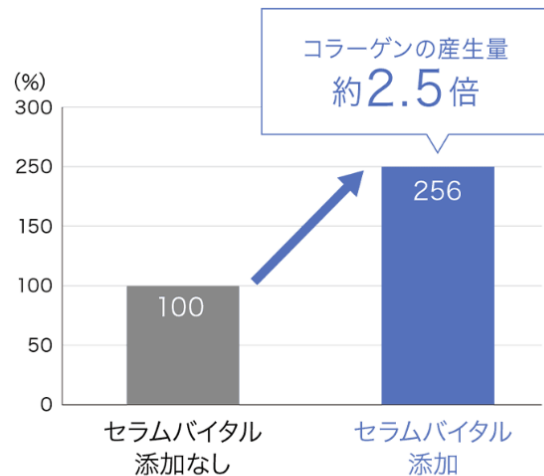


セラムバイタル塗布なし

セラムバイタル塗布

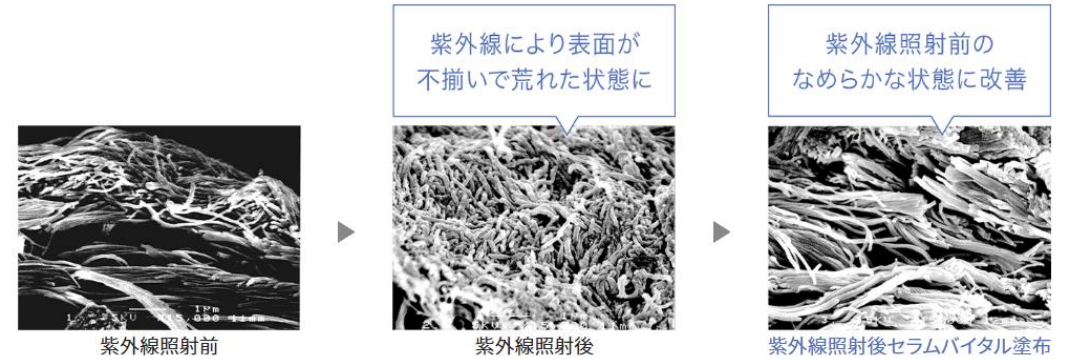
紫外線を照射した皮膚にセラムバイタル配合製剤を1日1回、12週間塗布。セラムバイタル配合製材を塗布した皮膚では、表皮肥厚が改善された。(当社調べ)

●セラムバイタルのコラーゲン産生促進作用



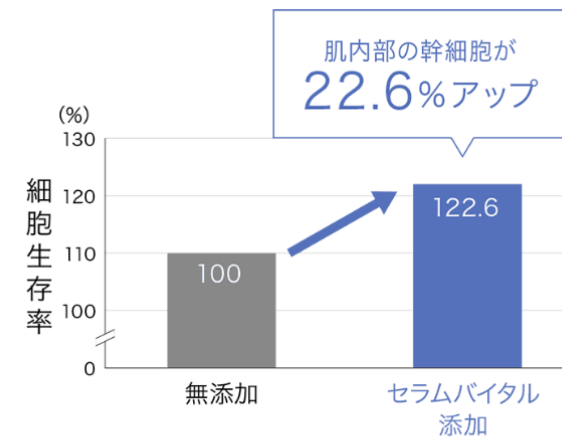
セラムバイタルを加えたヒト線維芽細胞でコラーゲン産生量を測定。セラムバイタルを添加すると、コラーゲン産生量が約2.5倍にアップした。(当社調べ)

●セラムバイタルによるコラーゲン線維の変化



コラーゲン線維に紫外線照射後セラムバイタル配合製剤を1日1回12週間塗布すると、表面がなめらかに改善した。(当社調べ) ※画像は電子顕微鏡写真

●セラムバイタルによるコラーゲン線維の変化



セラムバイタルを加えたヒト脂肪由来間葉系幹細胞で、細胞数を測定(当社調べ)

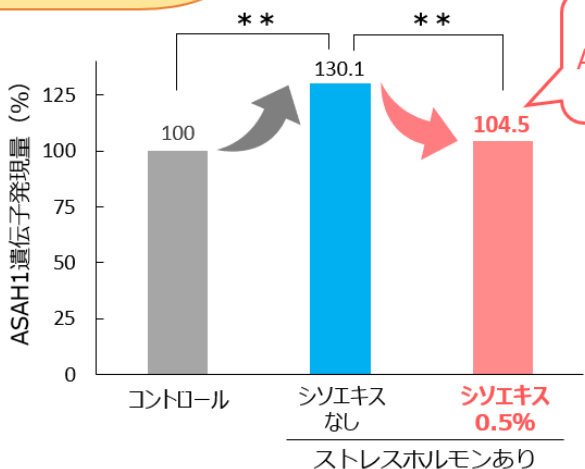
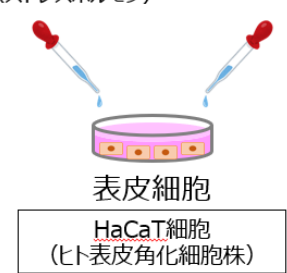
* 全て三省製薬 (株) 調べ

● シソエキスのセラミド分解酵素遺伝子発現抑制作用

2021年調査

ASAH1 : セラミド分解酵素

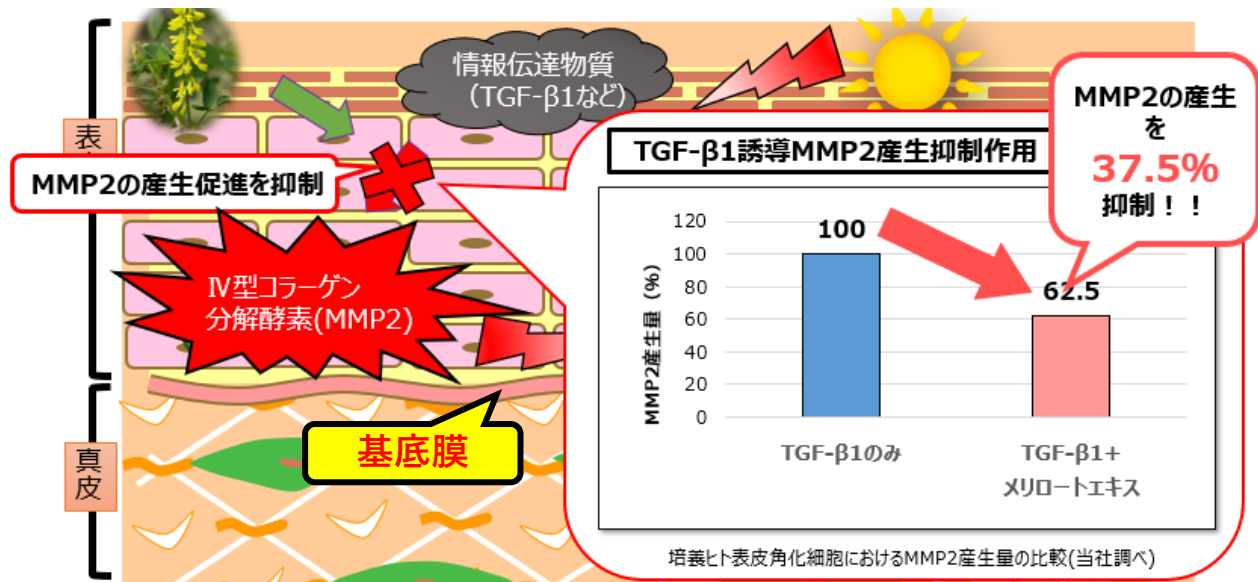
コルチゾール (ストレスホルモン) + シソエキス



ストレスによるASAH1の発現増加を約25%抑制

● メリロートエキスは基底膜成分の減少を防ぐ 1)

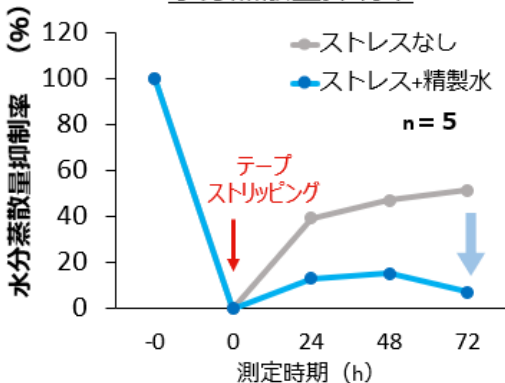
2022年調査



● シソエキスのストレスによるバリア機能低下の回復作用

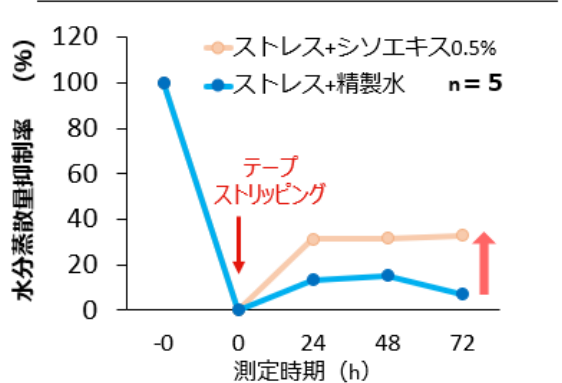
2022年調査

ストレス有無条件下の水分蒸散量抑制率



ストレスによりバリア機能の回復が低下

ストレス条件下のシソエキス有無時の水分蒸散量抑制率



シソエキスは、ストレスにより低下したバリア機能を回復

● メリロートエキスは基底膜成分の減少を防ぐ 2)

2022年調査



* 全て三省製薬 (株) 調べ

● メリロートエキスは基底膜成分の減少を防ぐ 3)



● アイクリーム

目尻のシワが改善! 2022年調査

目尻のシワに2ヶ月間使用したところ、水分量が約3.2倍に。画像診断でも、セラムバイタルとナイアシンアミドの相乗効果によるシワ改善を確認しました。

水分量

時期	水分量 (%)
初期	100
2ヶ月後	315

約3.2倍 UP!

使用初期

2ヶ月後

レプリカ画像

レプリカ画像

※試験期間: 2022年3~5月, 50代女性(当社調べ)

● リンクル クリーム

2022年調査

小ジワが改善し、ハリのある目元に!

新製品を目の下の小ジワを中心に2ヶ月間使用したところ、レプリカ画像ではもちろん、目視でもはっきりとわかるほど小ジワの改善が認められました。

使用初期

2ヶ月後

レプリカ画像

レプリカ画像

※試験期間: 2022年3~5月, 40代男性(当社調べ)

肌の水分量と肌弾力が大幅アップ!

使用開始から2ヶ月後には、肌の水分量が約4.1倍に、肌弾力は約1.2倍にアップ! 潤いのあるもっちりとした肌に導くことが実証されました。

水分量

時期	水分量 (%)
初期	100
2ヶ月後	411

約4.1倍 UP!

肌弾力

時期	肌弾力 (%)
初期	100
2ヶ月後	115

約1.2倍 UP!

● リップトリートメント

乾燥だけでなく縦ジワも改善! 2022年調査

使用1ヶ月で乾燥や皮むけが改善し潤いのある唇に。縦ジワの改善も認められました。

使用初期

1ヶ月後

レプリカ画像

レプリカ画像

※試験期間: 2022年3~4月, 40代女性(当社調べ)

使用開始から1ヶ月後には水分量が約3.2倍に、水分蒸散量は10%抑制。乾燥を防ぎ、潤いをキープすることが実証されました。

水分量

時期	水分量 (%)
初期	100
1ヶ月後	315

約3.2倍 UP!

水分蒸散量

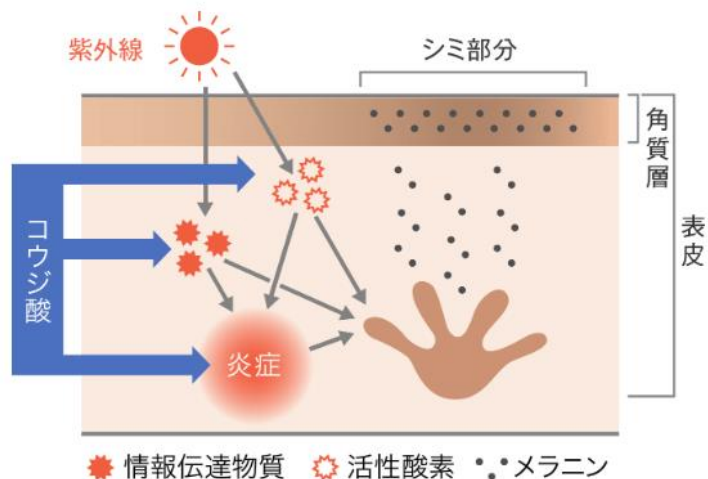
時期	水分蒸散量 (%)
初期	100
1ヶ月後	90

10% 抑制!

コウジ酸（デルメッド ブライトニングシリーズに配合）について

●コウジ酸の美白アプローチ

メラニン生成を促す3つの紫外線ダメージを抑制



●コウジ酸のシミ、黄ぐすみへの効果

シミ(日光黒子) 1994年調査



使用前

10ヶ月後

黄ぐすみ 2015年調査



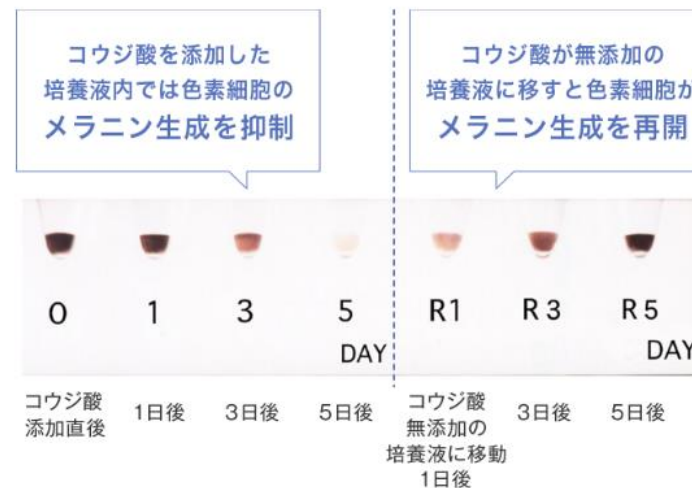
使用前

10ヶ月後

日光黒子と呼ばれる紫外線によるシミと黄ぐすみのある肌にコウジ酸配合のクリームを塗布。それぞれ10ヶ月後に目立たなくなっている。(当社調べ)

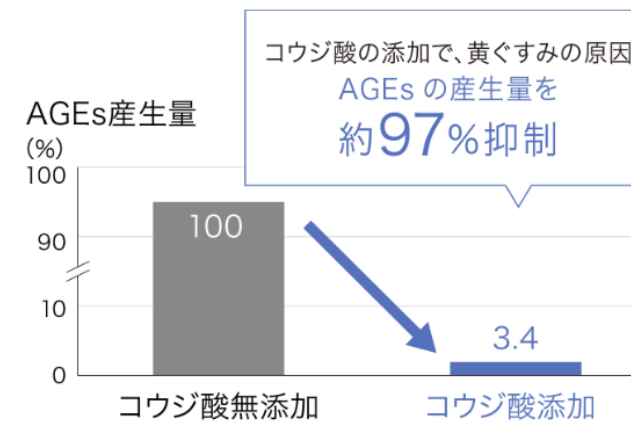
●メラニンをつくる色素細胞を傷つけず、肌機能をキープ

1994年調査



●糖化によって産生される黄ぐすみのもとAGEsを抑制

2015年調査



糖とタンパク質を混合した溶液で、AGEsの産生量を測定。(当社調べ)